

## 編 集 後 記

昨年12月8日の閣議決定で正式に天皇の退位が決定されて、2019年5月1日から新しい元号が公布されるとのことで、区切の良い30年という節目で平成に終わりを告げることになる。今年はいろいろな天災が各地で起こり、平穏な一年では終わらない様相を呈しているが、医学界では臨床的にも貢献する抗PD-1抗体ニボルマブ（商品名オプジーボ）の発見で生化学でのノーベル賞受賞に沸いたことは今年の後半での大きな快挙といえる。

今回の投稿論文でもがんの治療に関する論文が多かった。今年の死亡率を見てもやはり男女ともがんが第1位で総数の27.9%であり、序で心疾患15.3%、脳血管障害が8.2%と続いている。今回は特に大腸の外科的治療成績に関するものが3篇あった。内科系の筆者はコメントできる立場にはない。しかし我が身を振り返ってみると個人的で恐縮ではあるが、大腸がんで兄と母親が既に他界しており、わが国の悪性新生物の発生率を見ると、女性では大腸がんが第1位となっており男性でも3位であり、早期に手術すれば100%治る可能性があるとのデータを見ると、今後の治療手技の発展を心から願うものである。最後にもう一つ個人的な感傷を述べて筆をとめたい。今年のノーベル賞受賞者の本庄佑氏は筆者の大学での一年先輩であり、その当時の生化学の早石修教授は講義の時に自分の研究はノーベル賞に値すると我々学生の前で幾度となく豪語しており、本庄佑氏はその愛弟子であったから恩師の意志を見事に継いだのだなと生化学が苦手な、何とかごまかしで単位を取得した筆者としては当時をほろ苦く懐かしく思い出した次第である。

(H S)

## 島根医学編集委員

児玉和夫，貴谷 光，浅野博雄，大居慎治，沖田旺治，  
齊藤洋司，佐藤比登美，小林祥泰，井川幹夫，中島健二，  
小阪真二

島根医学

平成30年9月30日発行

発行者 島根県医師会  
出雲市湖陵町  
編 集 編集者 児玉和夫  
発行所 松江市学園南2丁目3番11号  
有限会社 松陽印刷所